

学校運営協議会だより

2021. 8. 4

町田市立町田第六小学校

会長 楚阪 博

校長 薄井 智美

第2回 学校運営協議会が7月28日（水）に行われました。緊急事態宣言下のため、広い会場で換気をしながらの開催としました。この日は町田市教育委員会指導課管理係の高橋様、岡本様、元本校教頭で学校支援センターの西岡様がコミュニティ・スクールのオブザーバーとして参加されました。

校長からおもに4月から7月までの本校の教育活動について報告し。協議会委員の皆様からご意見をいただきました。

本校の教育活動から

国語科を基盤とし、言語能力を高める指導を推進し、基礎・基本の徹底を図る。

文章問題を読み解く力に大きな課題がある。

国語科を中心とした校内研究を実施

研究主題「多様な考えをもち、すすんで伝え合う児童の育成～読む力の育成を通して～」
町六スタンダードに沿ってノートの書き方を統一、友達と考えを伝え合う学習を取り入れる。
学力向上について、次年度も引き続き学校経営の重点とする。

まちとも算数教室で子供たちを教えているところから見えること

家庭での社会体験の不足により、算数の問題を解くのが難しい。

数字を書くのがゆっくり。買い物経験がない。「輪投げ」という言葉を知らない等
低学年のうちに、考えや思ったことを人に伝えるということを十分に家庭で行うことが大切。

新しい概念を学ばせるときは、ステップを細かく踏んで教えるようにしている。
遊ぶことは大事である。遊びを通して体験していく。

navima のドリルソフトを指で数字をかいていると、認知されない数字がある。「9」という数字を「2」のように、最初に下向きにまるをかき出す児童がいて、そうすると当然タブレットでは認識されず、見た目は「9」であっても間違いとなる。筆順や数字のかき方をしっかり指導しなければならない。

文章を読めているけれど分かっていない。

「どちらがどれだけ多いでしょう」という問題に、数値しか答えない。

何をどのように答えたらよいのかを、子供たちにきちんと理解させる。

いいなと思うことを3人に繰り返し話すとよい。同じことも相手によって表現が変わる。

家庭で子供の話がちぐはぐで分からない。「いつ・どこで・だれと・何を」順を追って話させている。

臨時休業中に、自主学習の課題が出た。ノートにまとめるやり方を学校で提示されたが、子供はどうやってまとめたらよいか分からなかった。モデルを机の前に貼っている。低学年に「自分の考え」を書こうでは伝わらない。どう思ったか、気持ちはと言い換える。

毎朝遅刻がちの低学年児を、学校まで声をかけながら連れて行ってくれる児童がいる。

4年生が恩田川の学習で、たくさん質問をしていた。課題に対して貪欲に調べていた。エコネットの方が感心していた。

水泳指導について、顔を水につけられない子供がいたら、教員が水に入って指導すべき。町六小の子供は泳力がついていない。町二中に進学したら、泳げない子は夏休みに水泳の補習で練習している。

島国日本が海に囲まれており、水難事故にあわないために、泳げるように水泳指導がある。

学校でどのように教えるか、話し合ってきちんと指導する。

次年度の教職員の任用に関して

若手教員の増加、経験ある教員の異動という現状から

教員の入れ替わりに対応できる授業スタンダードを確立し、学習指導力のある教員を任用
町田市唯一の肢体不自由学級として、特別支援教育の専門性をもった人材配置

次回 9月9日（木）学校保健委員会

9月10日（金）11日（土）学校公開